2023年5月　毎月1日発行　第177号
発行者　光栄プロテック　中川

5月に向けて

代表取締役　三田雅憲

今春4月も瞬く間に過ぎていきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？
4月の嬉しい当社のお知らせとしては、3月に卒業された新卒者4名が（大阪2名・千葉2名）新しい当社のメンバーとして入社してくれたことです。
4月の仕事ぶりを見ても、先輩の言われる指導を真摯に誠実に学んでくれている様子や、報告を聞いて本当に嬉しく感じております。また先輩たちも暖かく見守り、積極的に指導に取り組んでくれていることにも感謝しております。
もう一つ、3年前に当社を卒業されたAさんにも彼らの指南役として、現役復帰をお願いしたところ、この4月に復帰して頂きました。ご家族様のご協力も多分にあったと思いますが、本当にありがとうございます。このAさんの仕事ぶりをぜひ、若い方は参考にして頂きたく思います。
そこで今月は、先日も朝礼にて少し触れました宮大工の小川三夫さんから学びたく思います。

「ものを覚える。技を手に入れる。感覚を身に付ける。それは遅々として進まない道ですが、ある時にグイっと階段を上がります。その階段を上がる時に、一つ上の何かを掴み取るのです。それが自信になります。ものを教わる、覚えるために一番大事なことは、素直なことです。教える方もその方が良いし、教わる方も同じです。その職業で生きていくために自分が身に付けることですから、他人の目をごまかしても何もなりません。損なだけです。
修行に関しても然りです。何から何まで知らないことなのですが、知らないことをやるから修行なのです。当然、親方からも先輩からも叱られます。失敗するから叱られて、決断できないから叱られる。遅いから叱られる。叱られるのが修行です。ごまかしたり、隠したりしていたら、せっかく修行に来て大事な時間をかけているのに何も身に付かない。
しかし、いつまでも叱ってもらえません。親方に叱られて10年。この10年間で基礎を学び、次の10年間で世の中を知り、他の職人を知り、自らに気付くのです。この間も怒られ、叱られ、文句を言われながら自分を磨きます。
また今度は自分が指導者にまわり叱る時は、気付いた時にその場で素直にダメな部分を言ってあげることです。小利口（こりこう）に後になって言うのはダメです。失敗したまさにその時に、愛情を持って叱ることが一番相手に染み込むのです。叱られたかどうかは自分が感じるもので、このことにいちいち反発したら何も身に付きません。素直になることです。そうでないと叱る親方・先輩も疲れます。疲れたら叱らないようになりますし、それは見捨てられたようなものです。
40・50歳は充実した時期です。しかし60歳・70歳になれば身体も弱り、勘も鈍ります。この時には責任のいる仕事を譲る時です。
このように40・50歳代で充実した仕事をするためには、30歳代でどのように感じ、どのように生きてきたかで決まります。また30歳代の生き方は、20歳代や修業時代に身に付けておかねばなりません。それだけ若い時の生き方は大切なのです。」

今月は職人として生きた小川さんの修業時代の素直な気持ちの大切さや、叱り方や叱られ方の大切さを学びました。
現代の諸君は、愛情を持って叱られることは少なく、またこのようなある意味濃い「徒弟制度」などは、流行らないと思うかもしれませんが、私自身も先代に愛情を持って叱られ続けたことが、今の自分を形づくっていると考えています。
今の私は、会長をはじめとする先哲・先輩から学んだことや、自分の失敗したことを後輩に伝え、彼らがより良く生きていけるようにすることが、自分の受けた恩情を返すことなのか、と考えています。
若い社員が、のびのびとこれからも頑張っていける会社づくりを目指してこれからも共に頑張りましょう。